

幼い頃から両親とよくパチンコ店に出入りしていたこともあり、高校3年の頃には遊び程度に一人でパチンコをするようになっていた。

29歳で結婚。その後すぐに妊娠、翌年には長男を出産した。育児疲れからか情緒不安定な私を見かねた夫が、休日に「のんびりしておいで」と2万円を渡してくれた。何をしようか迷ったあげく、とりあえずパチンコ店に入った。すぐに大当たりをして、あっという間に2、3万円のお金を手にした。久しぶりにお金を手にした嬉しさと驚きで急いで家に帰った。それから度々パチンコ店に行くようになり「負けた悔しさ」や「もうちょっとやりたい気持ち」を段々と感じるようになり、長男が2歳になる前には週末が来るたびに何か理由をつけては一人で出かけるようになっていた。

ギャンブルで使う時間も金額も増えていき、約束した帰宅時間も守れない自分の行動を後ろめたく感じるようになった。やがて夫の給料ではどうにもなくなり、ボーナスを使い込み、定期預金にも手をつけるようになった。負けた時はしらふに戻り「なんでまたやったのか」と何度も何度も後悔をした。

長男が4歳の時、二人目を妊娠して家族が増えることを転機に「生活を改めて、家族のためにお金を使おう」と実家のそばに中古マンションを購入する一大決心をした。

当時、私のギャンブルのせいで貯金は全くなかったが、車を売り夫の実家に援助してもらい頭金を作り、35年の住宅ローンでなんとか買うことができた。しかし次男が生まれると首もすわらないうちに「買い物に行くから」と実家に預け、長男が幼稚園から帰るまでパチンコをしていた。そのうち「毎日何時間も何しているの？ どうせパチンコでしょ」と母にも嫌みを言われ「誰にも邪魔されずに、もっと自由にやりたい」と思うようになった。

そんな時に無認可の保育園を見つけた。かなりの金額だったが「勝てば大丈夫！」と思っていた。初めは次男だけを預けていたが、夫の帰りが遅いのをいいことに幼稚園から帰ってきた長男も一緒に夜9時頃まで預けるようになり、保育料が3万円を超えることもあった。保育園に行きたくないとぐずる長男を「おもちゃ買ってくるから」と言い聞かせなんとか保育園に連れていった。でも帰る頃にはデパートもおもちゃ屋も閉まっているし、負ければ買ってあげるお金すらなくなっていた。手づくりだったお弁当も、コンビニで買ったパンや弁当を詰め替えただけのものになり、幼稚園からの呼び出しにもパチンコをしていた私は応じることが出来なかった。幼稚園の月謝も払えず滞納するようになり、母が代わりに払ってくれた。

ふっと「自分は何をしているんだろう。こんな事じゃ子供も自分もダメになってしまう」という思いが頭をよぎることもあったが、パチンコ店の駐車場で車内に置き去りにされた子どもが熱中症で亡くなったとか、店内についてきていた子どもが連れ去られた事件をテレビで見るたびに「お金を払って安全な場所に子どもを預けている自分はこの人とは違う」と自分を正当化していた。そのうち保育園代も出せなくなり「子どもをみてほしいから帰ってきて」と仕事上の夫に頻繁に電話をするようになった。さすがの夫も「会社には、うちの妻は頭がおかしいから大目に見てほしいと言っている。俺の気持ちにもなってくれよ」と激怒した。その言葉を聞いても私は、彼の情けなさや苦勞を理解するどころか、「自分の妻を狂っていると言うなんて許せない」と腹を立てパチンコに向かった。

パチンコには以前のような楽しさは全くなり、家族関係、金銭、自分の身体や精神、すべてがおかしくなっていた。私の状態を見かねた姉が調べてくれて「この子は病気だから、依存症の専門病院に連れて行ってちょうだい」と夫に伝えてくれた。翌日、私は途中で逃げないように夫に手をつながれて病院へ向かった。医者は「ギャンブル依存症という病気ですよ」と言い、ギャンブル依存症の自助グループを教えてくれた。医者「の「病気」という言葉にほっとしたのを覚えている。これまで何かをしてギャンブルを止めようとしていたが、初めてギャンブル止めるための方法を教えてもらった。それから毎日、子供たちを実家に預け、医者からのアドバイス通り交通費だけをもってギャンブル依存症のミーティング（GA）に参加するようになった。

同じ問題を持つ仲間の中で、今まで家族や友人には話せなかったギャンブルにまつわる話や、

自分の気持ちを少しずつ話していった。ミーティングを通して自分の力ではギャンブルを止められないこと、ギャンブルをすると大事な約束や強い決意があってもやりすぎてしまう事に気付いていった。仲間の話が自分の経験と重なり、この中でなら止めていけるかもしれないという希望が感じられた。しかし未熟な自分は家族との関係を修復することが出来ず、家を飛び出して夫とは離婚をした。その後も人とかかわりの中で数々の失敗をする度に、仲間の中で 12 ステップを通して自分の欠点をどうしたら変えていけるか教えてもらっている。これからも仲間の中で自分の問題と向き合いながら成長していきたいと思う。